

《担当者名》教授 / 太田 亨 ohta@

**【概要】**

小児の診療に必要な知識を得る。

**【学修目標】**

小児の発達・疾病について基本的な知識を持ち、外来診療上必要な情報を聴取し評価する。  
 疾病罹患患者が歯科治療を受診した際に、その疾患の知識をもって適切な対応を行う。

**【学修内容】**

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	小児の感染症 小児の免疫・アレルギー性疾患	小児によく見られるウイルス感染症と細菌感染症 喘息・アトピー性皮膚炎・紫斑病・免疫不全	太田 亨
2	新生児・先天性疾患	新生児、先天奇形、先天性心疾患	太田 亨
3	小児の神経・筋疾患 代謝内分泌疾患	小児の神経疾患・筋疾患など	太田 亨
4	小児の腎疾患・血液疾患・悪性腫瘍・消化器疾患	腎炎・血液疾患・糖尿病・小児悪性疾患・消化器疾患	太田 亨

**【授業実施形態】**

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

**【評価方法】**

Google classroom を利用した、レポート形式マークシート試験 100%。

**【教科書】**

その都度、プリントを配布する。

**【参考書】**

西 基 他 「New Simple Step小児科」 総合医学社

**【備考】**

Google FormやGoogle Classroom を活用し、資料配布や授業時間中にその場で学生の理解度を把握する。

**【学修の準備】**

予習は、各時限の講義項目の教科書領域を、一読し理解しておく（80分）。

復習は、講義項目のプリント内容を記憶する（80分）。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を小児科学の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を小児科学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を小児科学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を小児科学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域のおよび国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を小児科学の観点から修得する（社会的貢献）。

**【実務経験】**

太田 亨（医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

小児科医師としての実務経験を活かした講義をすることで、歯科医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。